

国産純粋種豚改良協議会 令和2年度総会開催

12月18日、国産純粋種豚改良協議会の令和2年度総会が、一般社団法人日本養豚協会 事務所会議室(東京都渋谷区)にて開催されました。(一部WEB参加)

第4回目を迎えた総会では、東北大学大学院鈴木名誉教授並びに農林水産省生産局畜産部畜産振興課の松本畜産技術室長から開会の挨拶を頂いた後、令和元年度の事業実績及び収支決算に関する報告、監査結果の報告、令和2年度事業計画及び収支予算についての説明があり、全会一致で承認されました。また、今年度は役員改選であり第2期役員に再任が承認されました。(第3期役員については別途参照)

そのほか、協議会専用データベースシステムの運用開始と共に年度内にシステムを使った協議会遺伝的能力評価、種豚ランキングの公表、前年度の総会で承認された「銘柄豚認定に関する規則」の一部改訂案が提出され、こちらも実質事業開始となります。また、国の飼養衛生管理基準が大幅に改訂されたことによる協議会会員・オブザーバーが提出する衛生チェックシートの見直し案も承認されたほか、協議会会員章(バッジ)・会員証についても承認されました。

最後に、独立行政法人家畜改良センターの磯貝理事のご挨拶を同センター茨城牧場の新場長に代読して頂き、閉会となりました。そのなかで、本日の総会で国産純粋種豚の改良の推進について重要性が認識されました、とありましたがまさに、再認識と強い決意を皆さん感じたことと思います。

冒頭の鈴木名誉教授の挨拶では「海外産豚肉と国産豚肉の差別化を図っていくにはまず、国産純粋種豚による肉豚生産が重要になってくる」と喝を入れて頂き、来賓の松本畜産技術室長からは「我が国の国産純粋種豚の改良を進めるには国産純粋種豚改良協議会の枠組で、国とも連携して進めていくことが一番有効。」とご挨拶を賜りました。私達協議会だけではどうしても対応できない部分は、国の方にも協力を求めて参ります。

総会終了後には、出席者で意見交換会を実施し、改良促進のためのつなぎ評価の導入や、繁殖能力改良に相関性があると考えられる乳器・生殖器のデータ収集、また、現在の特徴ある肉質を維持しつつ能力向上をめざすための産肉能力検定に伴う案件等について、データ収集については協議会が率先して取り組んでいくこと、そのデータを管理分析して改良に役立てるためには専門知識や必要な機器導入補助も必要であり、これらには官民一体となって取り組む必要があることを認識しました。

いよいよスタートする国産純粋種豚改良協議会の種豚ランキング公表や、銘柄豚認定事業では国産純粋種豚を使った豚肉の優位性、さらには広く血統管理の重要性、それが改良の一步であることも訴えていきたいと思えます。

また、CSFやASFについても、種豚及び種豚生産者をどう守るか、また種豚・精液の流通をスムーズに行い、遺伝資源である種豚を守っていくためにも引き続き国と一緒に対策を検討していく必要があるという意見があり、これに対して松本畜産技術室長か

らは、種豚事業者が新たな供給農場を設けるための支援メニュー等もあるため、各事業者の要望を丁寧に聞きながら種豚流通の円滑化を図っていききたいとの回答がありました。

国産純粋種豚改良協議会 第3期役員

役職	氏名	所属	
会長	星 正美	有限会社 星種豚場	再任
副会長	独立行政法人 家畜改良センター 理事	独立行政法人 家畜改良センター	再任
副会長	山田 芳男	株式会社 山田 B.F	再任
監事	桑原 康	農事組合法人 富士農場サービス	再任



開会挨拶を頂いた
東北大学大学院
鈴木名誉教授



WEBにてご出席の皆様



会場の様子